尾瀬　平ケ岳

平成 21 年 3 月 20～22 日

L白土・志満（記）

20（金）

戸倉 6：00 発～津奈木橋 8：40～9：55 鳩待峠～11：30 山の鼻～13：10 猫俣川二俣 13：10～15：40 テン場

21（土）

5：40 発～白沢山 8：50～平ケ岳 10：20～白沢山 11：45～大白沢山乗越 13：55～猫又川二俣 14：50～山の鼻 16：00～鳩待峠 18：10

22（日）

6：15 発～小至仏山手前滑走 8：30～ワル沢出合 9：00～鳩待峠 9：30～テン場発 10：20～津名木橋 10：40～戸倉 11：35

GWのトレーニングとしてテント装備を背負って平ケ岳を PH。横の広がりを持つこの山域は登下降より歩く要素が多く尾瀬戸倉から平が岳往復 50km（うち林道 20ｋｍ）この長い距離をスキーで駆け巡り、山深い奥利根を堪能した。

20 日（金）

4：45 分起床、どんよりとした雨雲だ。私たちが出発する時、鳩待峠ベースの菊地さんパーティーが目覚めテントから顔を出し「頑張って！」と見送られる。林道は雪がないかと心配したけれど入り口からびっしりあり一安心。歩き始めてすぐ雨が降り出してきたけど本降りになることなく薄日が差してきた♪津奈木橋までは忠実に林道を進み、ここから津奈木沢の左岸を登り林道をワープしながら鳩待峠にたどりつく。途中、生々しい大きな熊の足跡を見つけた冬眠から覚めお腹を空かして徘徊しているのだろう。

以前スキーで来た時はここをベースに至仏山からの滑走を楽しんだけれど今日は違う、あくまでここは通過点であってまだまだ先が長い急ごう！シールをはがして疎林帯を抜け山ノ鼻へ向う。山ノ鼻は広大な雪原が広がっていて静けさに吸い込まれそうだ。猫又川沿いに歩いていき柳平を過ぎると両側が狭くなり二俣となる。ルートは左俣にとりその先で左岸の尾根に取り付いた。急な斜面を登りきると台地となっていてホッとしたのもつかの間すぐにまた急な斜面になる。時は１５時、気温の上昇によって雪が緩みシールに雪がへばりつき下駄状態となる。１０センチ以上背が高くなっているだろう９時間も歩きつづけ疲労が出てきた頃にこの状態は非常に辛く足におもりをつけた囚人のよう。ペースは一気に落ち白土さんとの差がさらに広がる「テンバまだ？？？」と泣きが入りそうな時、ふと先を見るとザックをおろしテン場を踏み固めている白土さんの姿が・・・・

＜天使＞に見えた。

＜熊の足跡＞

21 日（土）
3：30 起床。昨夜からの風はまだ止んでいなく外は騒がしい。平ケ岳ツアーは山の鼻をベースにし軽装でアタックするのが一般的だけど私達はトレーニングのためテント装備一式を背負ってのＰＨとなる。薄暗い中、出発！昨日の疲れはなくかえって身体が軽くなっている。荷物の重さに身体が慣れたのであろう。疎林帯を抜けると展望が広がり振り返ると至仏山が朝焼けでオレンジ色に輝いていた。途中、白土さんのシールのワイヤーが切れ修繕をする。針金とペンチを持ち合わせていたのにはさすがと思った。こんなハプニングもあるのだとこれからは自分も持つようにしよう。平ケ岳に続く稜線にでて小さなピークを左からトラバース、白沢山を過ぎた辺りから尾根が痩せ東側に雪屁が張り出していた。後ろから単独のスキーヤーが追ってきた話をすると山スキーは２度目でゲレンデも２回くらいしかやった事がないというそれでも単独でここまできてしまうその度胸と根性には感心する。北方に伸びる尾根の先には平ケ岳の大斜面が青空を背景に白い輝きを見せている（早くあの斜面を滑りたい）1936m の大地からは展望を楽しみながら進み、頂上直下の最後の登りを 1 歩 1 歩噛みしめて登る。10 時 20 分平ケ岳登頂！頂上からは越後の山、日本海、遠く飯豊の山々、私達が歩いてきた尾根の先には至仏山が遥か遠くに見える☆

＜平ケ岳山頂より遥か遠く至仏山を望む＞

360℃の大展望を堪能したらいよいよダウンヒル！大きな荷物を背負ってはバランスが難しいけれど緩み始めた雪質が見方になってくれて爽快にすべって行く。またたく間に平ケ岳のドームは遠ざかり頑張って歩いたご褒美は一瞬で終わってしまった。大白山手前でシールをつけ大白沢山乗越まで 2、３のアップダウン。途中またもやシールに雪がつきここで一気に体力が消耗する。乗越からは緩やかな斜面を往路のトレールを降りていく。途中、尾根から見下ろすと熊が走り去っているのが見えた。計画では山ノ鼻泊だけれど菊地さんパーティーがいる鳩待峠まで行こうかという話になった。かなり

疲労が出てきているし、あちこちに靴擦れが起きていて痛い。ギブアップしたい所だったけどあと２時間頑張れば仲間と会え賑やかな夜を過ごせる。足を引き摺り最後の力を振り絞って鳩待峠に到着！「おかえり」とみんなの笑顔がたまらなく嬉しかった。本日の行動時間１２時間半くたくたになったけど充実感に満ちた一日となった。

＜朝焼けの至仏山＞

22 日（日）

今日は至仏山ワル沢左俣を滑る事に。昨夜までは靴擦れが痛いから私はテントキーパーと弱音を吐いていたけれど、ひとり残っているのも寂しいし足の痛みもラクになったので行くことにした。今にも降りだしそうな雨雲が広がる中、総勢 6 名賑やかにシール歩行していく。途中雨がぱらついたけどすぐに止んだしかし稜線は風が強い。至仏山手前小ピークから滑走開始！至仏山の斜面は開放感があって気持ち良く滑り甲斐がある毎年訪れてもいいなと思う。途中、鈴木さんと２人沢へ降りてしまいみんなと逸れてしまったけれど出合で合流。鳩待峠まで最後の登りを終え３時間のツアーが終了した。早々にテントを撤収し林道をワープしながら滑走。往路では鳩待峠まで４時間かかった道のりを１時間ちょっとで降りてきてしまった。やっぱりスキーの機動力はすごい！って思うのだ。ハードな山行だったけど終えた時の達成感がたまらなく気持ちよい。癖になりそう☆☆☆

＜鳩待峠にて　全員集合！＞

＜平ヶ岳に向う＞